

第二十五回帝國議會 衆議院 立木ニ關スル法律案委員會會議錄(筆記)第一回

委員成立

本委員ハ一昨二十日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

鵜澤 總明君 井上 傳作朗君 町田 旦龍君

阿部 政太郎君 渡邊 兵四郎君 森 正君

鈴木 總兵衛君 世良 靜一君 濱田 國松君

明治四十二年三月二十二日午前十時二十五分委員長理事互選ノ爲各委員參集ス其ノ氏名左ノ如シ

鵜澤 總明君 井上 傳作朗君 町田 旦龍君

阿部 政太郎君 渡邊 兵四郎君 森 正君

鈴木 總兵衛君 世良 靜一君 濱田 國松君

年長者井上傳作朗君投票管理者トナル

○投票管理者井上傳作朗君ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス

○投票管理者井上傳作朗君ハ投票ヲ用井上鵜澤總明君ヲ委員長ニ推薦シ理事ハ委員長ノ指名ニ任スヘシト發議ス

○投票管理者井上傳作朗君ハ異議ナキヲ認メ鵜澤總明君ハ委員長ニ當選セラレタル旨ヲ宣告ス

○委員長(鵜澤總明君)ハ渡邊兵四郎君ヲ理事ニ指名セリ

○委員長(鵜澤總明君)ハ引續キ會議ヲ開ク旨ヲ宣告ス

會議

出席政府委員左ノ如シ

司法次官法學博士 河村讓三郎君

農商務省山林局長 上山滿之進君

司法省民刑局 長法學博士 平沼騏一郎君

司法省參事官 齋藤十一郎君

(以下速記)

○委員長(鵜澤總明君) ソレデハ是カラ會議ヲ開キマス

○政府委員(法學博士河村讓三郎君) 本案ハ立木ノ集團ヲ獨立ノ不動產ト見做

シマシテ、土地ト分離シテ之ヲ讓リ渡シ、或ハ抵當トナスコトヲ得ベキ規定ヲ設クルノデ

アリマス、奈具縣下ノ如キ植林事業ノ盛ナル地方ニ於テハ、四百年來地方ノ習慣

トシテ實際ニ行ハレマシテ、之ニ依テ林業ノ發達ノ上ニ大ニ裨益ヲ致シテ居タルデアリ

マス、然レニ新民法登記法ノ實施以來立木ハ土地ト分離シテ處分スルコト云フコトガ出

來マセヌ、ソレガタメニ當時ト云フモノハ少ナカラズ不便ヲ感シテ、爾來此修正ノ希望ヲ

政府ニ申出ラレテアツタデアリマス、林業家並ニ金融機關タルコロノ銀行當局者ヨリ

モ、同一ノ希望ヲ提出サレテ居タルデアリマス、曩ニ二十二年議會ニ一度此案ヲ提出致

シタコトガアリマスケレドモ、會期ノ切迫ノタメニ成立ヲ見ナカッタデアリマス、爾來尙一

層ノ研究ヲ加ヘマシテ、今回提出致シマシタルデアリマス、貴族院ニ於テモ慎重ニ致究

サレマシタルデアリマス速記錄ニ付テ定メテ御覽ノコト、考ヘマスガ、其結果第一條第

二條及第四條ニ聊カ修正ハ加ヘラレマシタケレドモ、其修正ハ適當ナコトデアルト認メ

テ居ル次第デアリマスカラ、此案ハ前ニモ述ベマス通、之ニ依テ金融ノ途ヲ開キマシテ、
林業ノ發達ニ妙ナカラズ利益ヲ與フルトコロノ案デアリマスカラ、會期切迫ノ際速カニ御
審議ノ上御協賛アラムコトヲ政府ニ於テモ希望スル次第デアリマス、詳細ナコトハ他ノ
政府委員ヨリ御質問ニ應ジテ委シク御説明ヲ致スコトニ致シマス、一應提出ノ大體ノ
趣意ヲ本員ヨリ述ベテ置キマス

○阿部政太郎君 唯今政府委員ノ御説明ニ依ルト、本案ハ第二十二議會ニモ御提
出ニナツタコト云フコトデゴザイマス、所ガ其當時會期切迫ノタメニ不成立ニ終ツタス様
ニ政府委員ノ御説明ニナルヤウニ必要ナモノデアルトスルナラバ、二十二議會ノ以後ニ
於テ更ニ御提出ニナルベキ筈デアラウト思フ、尙當二十五議會ニ御提出ニナルトスレバ
斯様ニ切迫シタ今日ニ於テ、又二十二議會ノ覆轍ヲ履マウト云フヤウナ御考ヘガ必ズ
アルコトデアラウ、其心配ノアル今日、復二十二議會ニ提出シタト同一轍ノ形ヲ以テ御
提出ニナルト云フコトハ、何カ斯ク切迫スベキ理由ガアツタデアラウカ、一應伺ヒタイ

○政府委員(法學博士河村讓三郎君) 御不審ハ御尤デアリマスガ、別ニ深キ理由
モアリマセヌデス、畢竟政府ニ於テモ此取調ニハ慎重ニ慎重ヲ重ネマシタメニ提出ガ遲
レタ次第デアリマス、前ニ提出シマシタ案ト今回ノ案トヲ能ク比較研究下サレバ、政府
ガ如何ニ取調ベタカト云フコトヲ御推察ガ出來ヤウト思ヒマス、其一例ヲ舉ゲルト前ニハ
總テノ樹木總テノ森林ニ、此法律ヲ適用スルコト云フ主義デアリマシタガ、果シテ其事ガ
圓滿ニ適切ニ行ハレルヤ否ヤニ付テ、議論ガアツタコトモ政府ハ認メマシテ、今回ハ其點
モ修正ヲ致シテ、此人工植栽ヲ致シタ樹木ニ限ルト云フコトニ付テモ、果シテサウ云フコ
トニ改正シテ然ルベキヤ否ヤト云フ點ニ付テハ地方ノ實地ニ付テ直接取調モシナケレバナ
ラヌ、其タメニ人ヲ派遣シテ取調ヲ致シ、其他種々ノ點ニ付テ十分取調ヲ致シマセヌケ
レバナラヌデアリマス、ソレガタメニ提出者ガ遲レマシタノデ、遲レテモ有益ナモノト認
メマスルカラ、此案ノ成立ヲ希望スル次第デアリマス、今日提出致シマシタルハ畢竟研
究ノタメニ時期ヲ經過シタト云フ次第デアリマス

○井上傳作朗君 私ハ諸君ニ御參考マデニ述ベマスルガ尤モ奈良縣ニ於テ是ハ重大
ナル問題トナツテ居ル、ソレハドウカト云フト、既ニ地上權ノ件數ガ、全國一般ニ——奈
良縣ニ於テ之ヲ認メルコトデアッタラウト思フ、ソレデ我ガ奈良縣ニ於テハ此林木ノ地上
權ト云フモノハ、是ハ又耕地トハ違ツテ又價格ノ安イモノデアルガ、一町步ニ於テ尤モ
縣ニ依テ違ヒマセウガ、我奈良縣ニ於テハ一町步ノ地上ガ先ヅ百圓カラ三百圓以內ト
云フコトデ、ソレニアル林木ハ千圓ヨリ一萬圓以上ニナツテ居ル、ソコデ千圓以上一萬
圓以上ニナツテ居ル立木ト云フモノヲ保存スル保護ガナイ故ニ、既ニ金融機關ヲ發達セ
シメントスル農工銀行ト云フモノハ、此保護ガナイ故ニ、金融ト云フモノガサッパリ一圓ノ
金モ貸サヌト云フコトニナツテ居ル、尙又此立木維持ト云フコトニ致シマス、ドウシテモ
七八十圓以上百圓以上ノ維持ヲシマセヌト、相當ノ効ヲ見ルコトハ出來ナイ、サウシマス
ト其元ト投シタ資金ノ回收ト云フモノハ、立木ヲ以テソレヲ抵當トシテ賣買シ保存保護

ニナッテ居ルガ、是ガナイカラ斯ウ云フコトニナリマス、ソレニ奈良縣ニ於テハ立木ノ登記
ト云フモノガ含マヌノハ今日必要ニ迫ッテ居ル、是ハ我奈良一縣ニ限ラズ明治二十三
四年カラ以降ト云フモノハ各縣トモ續々此地上權ト云フモノヲ以テ、立木ノ處分法ハ
益々擴張シテ、ソレデ奈良縣ト云フモノハ最モ森林國ニシテ、先ヅ各國ノ先進トナッテ居ル
譯デアアル、是ハ奈良縣ニ限ラズ何レモ是ヨリ立木登記ト云フモノハ是非含マナケレバナ
ラヌト云フコトニ私ハ考ヘマス、ソレ故ニ是等ノコトハ最モ本議會ニシマス、最早會期モ
切迫シテ居マスケレドモ、是亦一年遅レマヌナラバ奈良縣ニシテハ非常ニ此殖林事業ノ
發展ヲ望ミマスカラ、諸君モ此等ノコトハ速ニ御協賛下サレマスルコトヲ希望致シマス

○町田日龍君 政府委員ニ御尋フ致シタイ、私ハ貴族院ノ速記録ヲ讀ミテ居マ
セヌカラ、或ハ無駄ナ御尋フスルカモ知レマセヌガ、此第一條ニ「造林ノ目的ヲ以テ生
立セシムル樹木云々」ト云フノヲ、貴族院ハ「植栽ニ依リ」ト修正シテ居ルヤウデアリ
マスガ、此政府案ノ造林ノ目的トアル造林ト云フノハ、人工林ノミニ限リテ造林デア
リマスガ、又天然——自然生モ今日尙存シテ居ルヤウニ思ヒマスガ、ソレ等モ今日所有
者ガアッテ幾分ソレニ保存ノ方法ヲ加ヘテ來テ居ル、此モノモヤハリ造林ト云フ目的
ニナッテ居ルカ、又ヤハリ此貴族院ノ修正ノ如ク植栽シタモノニ限ラズモ、自然生ト云
フモノハ全ク取除ケテアッタト云フノデアリマセウ、今此修正見マスルト全ク人工ニ依
テ植栽シタモノニ限ラズコトニナッタヤウデアリマスカラ、ソレハ一番ニ御尋フ致シマス、其次
ニハ第四條ノ「其樹木ハ土地ヨリ分離シタル後ト雖モ云々」トアリ、此土地ヨリ分離シ
タルト云フ事柄ハ、其樹木ヲ伐採シテ分離シタルト云フデハナクシテ、權利ガ土地ト立
木ト其所有者ノ異ナタ場合ト雖モト云フ意味合デアリマセウカ、之ヲ第二番ニ御尋フ
致シタイ、其次ニハヤハリ第四條ノ二項「抵當權者ハ債權ノ期限ノ到來前ト雖モ前項
ノ樹木ヲ競買スルコトヲ得」ト云フコトガアル、此債權ノ期限ガ來ナイ中ニ競買スル必
要ハドウ云フ譯デアアルカト云フコトヲ御尋致シマス、ソレカラ四番目ニ第十二條「立木登
記簿ハ一箇ノ立木ニ付キ一用紙ヲ備フ」トアル、サウシテ見ルト一ノ抵當ヲナスタメニハ
千本ノ木ハ千本、一万本ハ一万本、各別々ニ其本毎ニ調査シテサウシテ一本毎ニ登
記ヲスルト云フコトニナッタヤウニ思ヒマスガ、是ハ餘程當事者ニ取ッテ煩雜ノ仕方
デ、又困難ナコトデアアルマイカト思ヒマスガ、何カ是ハ斯ウシナケレバナラヌ必要ガアルノ
デアリマセウカ、先ヅソレヲ考ヘ伺ッテ置キマス

○政府委員(上山滿之進君) 四箇條ノ御尋デアリマシタガ、第二以下ノ御尋ニ對シ
テハ司法省ノ政府委員カラ御答ヲ致シマス、第一ノ御尋デケニ付テ本官カラ御答ヲ致
シマス、第一ノ御尋ハ原案ノ造林ト云フ文字ノ意味ハ、其造林ト云フコト、植栽ニ依
ルト云フコト、ドウ云フ區別ガアルカト云フ御尋ト承知致シマス、政府ノ原案ニ書キマシタ
造林ト云フハ、純粹ノ天然林ト云フモノヲ含マナイ、ケレドモ其他ノ山林即チ人工植栽
デ造リタテタ山林ハ勿論ノコト、人工植栽デ致シマセヌデモ、薪山ノ如キ皆伐ヲ致シテ其
處ニ處々母樹ヲ殘ス、サウスルト其母樹ガ自分テ天然ニ種子ヲ下シテ、ソレカラ幾十年
カ經ツト林ガ成立ツ、斯ウ云ウヤウナモノモ含ム、結局政府原案ノ造林ト云フノハ人工
デ植ヘデモ植ヘナイデモ山ヲ人手ニ依ッテ育デルト云フ目的デ、一定ノ計畫ノ下ニ常ニ手
ヲ入レテ居ルト云フモノハ總テ含ム考デアリマシタ、サウナルト此法律ノ適用ノ範圍ガ廣

クナリマス、所ガ貴族院デハ成程ソレモ結構デアリマスガ、實ハサウナルト造林デ出來タ山
ト、ソレカラ純粹ノ天然林トノ區別ガ能ク分ラヌ、此實際ノ適用ニ因ルデアラウ、ソレデ
現在直接ニ必要ナルモノハ倍ドウ云フモノデアアルカト云ヘバ人工植栽デ成立ツ山ニ必
要ガアルノデアアルカラ、此際ニ何モサウ廣ク外ニ及ボス必要ガナイデアラウト云フノデ、人工
植栽ト云フコトデケニシタイ、斯ウ云フ貴族院ノ趣旨デ斯ノ如ク修正ニナリマシタ、ソレ
デ政府ノ提案ヨリハ修正ノ方ガ少シ狄クナリマシタケレドモ、政府ノ方デハ現ニ差當リ必
要ノアルノハ人工植栽デ出來タ山林デケデゴザイマスカラ、此際貴族院ノ修正ニ同意シ
テ差支ナイト、斯ウ認メマシタ

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) 第二ノ御尋ハ第四條ノ一項ニ對シテノ御尋
デアリマスガ、第四條ノ一項「樹木カ土地ヨリ分離シタル後」ト云フノハ、所有者ノ異ナ
リタル後デアアルカ或ハ事實上伐採等ニ依ッテ離レタ場合デアアルカト云フ御話デアリマシタ
ガ、是ハ第四條ノ立案ヲ致シマシタ趣意ハ事實上離レタ場合デ、樹木ヲ伐リマシテ事實
土地カラ離レテシマッタ場合ヲ指シタノデアリマス、詰リ所有者ガ異リマシテモ立木ノ儘
所有權ガ追隨シテ參リマスカラ、別ニ其規定ハ必要ガゴザイマセヌ、唯樹ガ伐ラレマシテ土
地カラ離レルト動産ニナリマシマセヌ、其物ノ規定ガゴザイマセヌト、抵當權モ當然ニ無ク
ナッテシマフト云フコトニナラウト云フノデ、ソレデハ大變ニ抵當權者ガ困ルカラ、伐ラレテ離レ
タ場合デモ尙抵當權ハソレニ追隨シテ行クト云フ規定ヲ設ケタノデアリマス、ソレカラ第二
項ノ方ノ御尋ハ、債權期限ノ到來前ニ尙分離シタル樹木ヲ競買スル必要ガ何處ニアルカ
ト云フ御尋ノヤウニ承リマシタ、是ハ樹ガ伐ラレテ土地カラ離レテシマフト、何處デモ運
搬ガ出來マス、ソレヲ其儘ニ置キマスト朽敗シテシマフ虞ガアリマスカラ、之ヲ債權ノ期限
ノ到來マテ待ッテ居リマス、抵當權者ガ自分ノ利益ヲ失フ虞ガアリマス、ソレデ離レテシ
マッタ以上ハ早ク其處分ノ出來ル途ヲ著ケテ置ク方ガ、抵當權保護ノタメニ當ラ得タメ
ノデアラウト云フ考カラ此規定ヲ置キマシタ、併シ其場合ニ代金ヲ附シテ債權ニ充當ス
ルト云フコトハ致シマセヌデ、免二角供託ヲサセル、サウシテ急ニ期限ニ至ッテ拂ハヌ時分
ニ供託者カラ受取ッテ債權ノ賠償ニ充テル、ソレカラ第十三條ニ付テノ御尋ハ「立木登
記簿ハ一箇ノ立木ニ付一用紙ヲ備フ」ト云フコトニ付テノ意味ヲ御尋ノヤウデアリマス
ガ、是ハ一箇々々ニ付テ一用紙ヲ用井ル譯デアハゴザイマセヌノデ、是ハ第一條ト引合セテ
御覽ヲ願フト能ク分ラウト思ヒマス、第一條ニ於テ立木ト稱ヘルノハ樹木ノ集團トゴザイ
マス、一筆ノ地所ノ内ニ植栽致シマシタ樹木ノ全部、或ハ其一部分ニ植栽致シマシタ
樹木ノ全部、其集々モモノヲ一ノ立木ト稱ヘルノデアリマスカラ、ソレガ一人ノ所有ニ歸シ
テ居リマスレバ、其集團全部ガ一立木デアアル、其集團ニ付テ一用紙ヲ用井ルト云フコト
ニナルノデアリマシテ、一本々々ニ付テ一用紙トニハナラヌデアリマス、左様御承
知ヲ願ヒマス

○鈴木總兵衛君 私ハ政府委員ニ御尋シマスガ、大體此山林ハ唯今町田君ヨリ御尋
モゴザイマシタガ、所謂植栽林、人工ヲ以テ造ツタモノト云フコトガ主眼デアッデ、天然ノ山
林ト云フモノハ除外サレタ如クニ見エル、貴族院ノ速記ヲ見マスト是ニ付テモ多少質問
ガアッタヤウデス、是ハ政府ニ於テハヤハリ除外シテ置イテモ差支ナイト云フ意味デアリマ
スカ、自分共ノ思ヒマスルノハ立木ノ抵當權ガ使用サレルコトニナリマスル、縣下ヲ廣ク

見レバ造林ノ箇所ヨリモ天然林ノ方が廣イ、是等ヲ除外スルコトハ實際ニ於テ甚
ダ不都合カト思ヒマス、是等ニ付テハドウ云フ政府委員ノ御意見アリマス、第二ニハ
前年山林局ヨリ一般獎勵サレタ部分林ト稱ヘルモノガアリマス、是等ニモ此抵當權ヲ
使用セシメルト云フ御見込アリマス、ソレハ別問題ニナッテ居リマス

○政府委員(上山滿之進君) 御尤ナ御尋テゴザイマス、併シ政府ハ此際人工植栽
ノモノダケヲ此法律ノ支配ノ下ニ立テ、差支ナイ、斯ウ云フ見込貴族院ノ修正ニ同
意致シマシタ、其譯ヲ今少シ委シク申上ゲヤウト思ヒマス、御説ノ通りニ致シマスレバ、
出來得ルナラバ人工植栽ノモノダケデナクシテ、部分林ノ山モ此法律ノ支配ノ下ニ置イ
テ、抵當權ヲ持セルト云フコトハ宜イノデアリマス、併シ今日ノ現象カラ各地方ノ模様
ナドカラ推シテ考ヘマス、此人工植栽ニ依ッテヤツタモノガ餘程此法律制定ノ急ヲ感シ
テ居リマス、天然下種テ出來タヤウナ山ハ、ソレダケ急ヲ感シテ居リマセヌ、ソレハドウ云フ
譯デアラウカト思ヒマス、人工植栽ノ方ノ山デスト直グニ其山ガドノ位ノ値打ノアルモ
ノカト云フコトガ分リマス、隨テ抵當權ニ出ルノモ極ク容易クアルシ能ク行ハレマスガ、
擬天然林ニナリマスルト絶對ニ出來ナイコトハアリマセヌ、先ツ天然林ノ大部分ハナカ
ノ、此山ニ在ル樹齡其他ノコトヲ調ベルト云フコトガ餘程困難デアリマス、ソレデ事實
抵當權ニ出ルト云フコトモ餘リアルマイト思ヒマス、ソレハ政府ノ原案デ何故ニ天然下
種テ出來タ山デモ、此法律ノ下ニ支配スルコトニシタカト云フコトノ疑ガ出ルト思ヒマス
ガ、ソレハ一條ハ廣クシテ置キマシテモ、此度十五條ニ行キマシテ此登記ヲスルニ付テハ、
其登記ヲシヤウトスル目的物ノ樹種、ツレカラ數量、樹齡、斯ウ云フモノヲ書出サナケレ
バ登記ノ出來ナイコトニ十五條ニテ居リマス、是ハ斯ウ云フモノヲ悉皆調ベテ書キマ
セヌト、登記ヲシタ其登記ニ書イテアルモノト實地トガ當ルカ當ラヌカ分ラナイ、隨テ抵
當權ノ目的物が不確定ト云フコトニナリマス、ドウシテモ此抵當ニ入レテ登記ヲスル
ト云フ段ニナレバ、十五條ニアル事柄ガ必要デアリマス、ソコデ一條ハ原案デハ斯ノ如ク
廣クナッテ居リマスガ、之ヲ實地ニ當合メルニハ或山ガ一條ノ範圍ニ這入リナガラ、十五
條ノ樹種、數量、樹齡ト云フコトヲ書立テ出ルコトガ出來ナイモノガ多イ、斯ウナリマス、ソ
レデ此出來ルモノダケ初メテ此法律ノ支配ノ下ニ立ツト云フ、斯ウ云フ考デヤリマシタ十
五條ノ樹種、數量、樹齡ノ取調ノ出來ルモノハ、天然ニ種ヲ下シタ林デモ、其法律ノ
下ニ立タズト云フ考デゴザイマス、ソレハ申ササウ大シタ數ノモノデハゴザイマセヌ、サウ云
フ調ノ出來ルモノハサウ澤山ゴザイマセヌ、サウ澤山ナモノモ入レヤウトスルタメニ、一條ノ
範圍ガ大變ニ廣クナッテ居リマス、其廣クナッテ居ラバ宜シイガ、一條ニ書イテアル造
林ノ目的ヲ以テ出來タ山ト、ツレカラ純粹ノ天然林トノ境ガ明カナイト、斯ウ云フ貴
族院御説ガゴザイマシタ、是モ必ズシモ今日ノ現狀カラ言ヘバ、先程申シマシタ通り人
工植林ガ此法ノ急ヲ感シテ居ルノハ、又相當デアラウト思ヒマス、後日ハ後日ノコ
トトシテ、此際ハ人工植栽テ出來タ山ダケ此法律ノ支配ノ下ニ立タシテ差支ナイト、斯
ウ云フ意味デゴザイマス、ツレカラ第二ノ御尋ノ部分林ハヤハリ此法律ノ支配ノ下ニ立
タマス

○鈴木總兵衛君 續イテ政府委員ニ御伺ヒ致シマス、唯今ノ御答辯ニ依ッテ大要ハ
分リマシタガ、此第十五條ノ第二項ニ樹齡ト云フコトガ出テ居リマス、此樹齡ト云フコ
トニ付テハ、奈良縣ノ如ク古來造林ヲ主眼トシテ地方ノ産業トナッテ居ル所ハ、役場ト
カ或ハ組合事務所トカ云フ帳簿等モ、能ク整頓シテ居ルモノト信ジテ居リマスガ、他ノ
地方ニ至リマシテ所謂山間ノ僻地デハ、或ハ個人ナドガ一村ノタメ或ハ一家ノタメ二百
年ノ長計ヲ爲サント欲シテ、而シテ自ラ資本ヲ投ジテ植林ヲ爲シテ居ル、併ナガラ何分ニ
モサウ云フ僻地ノコトデアルカラ、是ガ植産林デアツタカ天然林デアツタカ不明瞭ノモノナ
キニシモアラズ、斯ウ云フ場合ニハ登記所ニ於テ事務ヲ執ル當該官吏ハ、最モ精密ナル
調査ヲシナケレバナラズ、然ルニ申スト失禮デスガ此僻地ニ於ケルコロノ登記當該官吏
ハ、動モスレバ山林ノ事情ニ暗イ人ガアル、唯自分ノ憶斷ヲ以テハ天然林デアルカラ
登記シナイ、イヤ證據物が不充分デアルトカ言フコトガアル、多少ノ不都合ハアルトハ思
ヒマスガ、是等ニ對シテドウ云フ御考デスカ

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) 唯今ノ御尋ハ此樹齡等ニ付キマシテ甚ダ不
明ナ場合ガアリマシテ、山間僻地ノ登記官吏等ハ植林ノ事情ニ暗イタメニ、種々不都
合ヲ生ジハシナイカト云フ御尋デゴザイマシタガ、ツレハサウ云フ登記官吏ニ於キマシテ、事
情ニ暗イ爲メニ分リ難イ場合モアラウト思ヒマス、併ナガラ此申請書ニ其事ハ記載セラレ
ルノデアリマシテ、登記官吏ハ是等ノ點ニ付キマシテ證據ヲ取調ベルトカ、或ハ其他裁判
所デアリマスルヤウナ調査ヲ致スベキ職務ヲ持ッテ居リマセヌ、兎ニ角此申請書ニ基キマシ
テ之ヲ登錄致シマスルノデアリマス、萬一此事柄ニ付キマシテ間違ガ起リマシタラ、後トデ
之ヲ訂正スル途ハアルノデアリマス、兎ニ角大體ハ此申請書ニ依リマシテ記載致シマスレ
バ登記官吏ノ責任ハ盡キルノデアリマス、申請ノ出マシタ場合ニ、是ハドウモ天然林デ
アル、人工植栽ニ依ッテ出來テ居ル山林デナイ、或ハ樹齡ガ百年デアルトカ云フコトヲ申
シテ登記ヲ拒ムコトハ、事實ニ於テ生ジナイト思ヒマス

○鈴木總兵衛君 唯今ノ政府委員ノ御答ニテ大體上ハ分リマシタガ、尙伺ヒマス、假
ニ此登記申請者が是ハ私共ノ祖先トカ或ハ我村ノ古ヘ誰カガ植栽シタモノデアル、サウ
シテ今日デハ樹齡ガ百五十年ニモ二百年ニモ達シテ居ル、斯ウ云フコトニ登記シテ載キ
タイト云フコトヲ申請スル、其場合ニ登記官吏ガ宜シト云フ登記シタガ、ツレガ他ノ資
本家ヘ廻ッテ金融ノ便利ヲ爲シタ、他日其事ガ事實相違デアルト云フコトヲ發見シテ、即
チ登記ト云フモノハ無効ノモノニナル、サウナルト本人ハ如何ナル處分ニ遭ハウトモ仕方
ガナイトシテモ、第三者即チ資本主ト云フモノガ損害ヲ被ル、最早此本人ニ向ッテ追徴
スベキ資力ガナイト云フヤウナコトデ、現ニ自分ガ明治七八年ニ其手ヲ喰ッテ二千圓バカ
リ損ヲシタ事例ガアル、斯ウ云フコトキニハ登記所ハ如何ナル手續ヲ取ルノデアリマス

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) 此官廳ノ責任ノコトニ付キマシテハ、非常ナ
大キナ問題ニ相成ルコトデアリマスガ、先刻モ申シマス通り官吏ガ登記ヲ致シマスニ付
キマシテハ、土地ノ登記ニ付キマシテモ家屋ノ登記ニ付キマシテモ、今日デモ必ズ間違ガ
起ラヌト極クモデハナイノデアリマス、樹木ニ付キマシテモヤハリ同様ノコトガ起ラヌト
云フ斷言ハ、是ハドウモナカク、出來ナイコトデアラウト思ヒマス、現ニ登記バカリデハア
リマセヌ、裁判ニ付キマシテモ隨分民事ノ訴訟等ニ付キマシテ、事實認定ノ間違ヒマス
ル事例ハ隨分アルノデアリマス、是等ハドウモ間違ノナイヤウニ證據ヲ備ヘサセルヤウニハ、
制度ノ上デナッテ居リマスルケレドモ、尙證據ヲ取調ベマシタ上デモ間違ノ起ル場合ハ事

例ニ乏シカラヌコトデ、サウ云フ場合ニ付キマシテ當事者が損害ヲ受ケル、是ハ成ルベク無イコトヲ期シマスルノデ、其タメニ種々ノ證據ヲ當事者ノ方カラ備ヘサセルヤウナ規定ニナッデ居ルノデアリマス、手續ヲ盡シマシタ上デ、尙間違ノ起ルト云フ場合ニハ、是ハドウモ——サウ云フ場合ガ萬一起リマスルコトハ、甚ダ遺憾ノコトデアリマスガ、ドウモ是ハ致方ガゴザイマセヌノデ、其タメニ法律ニ定メマシタ手續ダケハ十分盡サセルコトニハ勿論致シマス、ソレカラ其間違ノ起リマシタ場合ニ、官廳ノ責任ニ付キマシテハ場合ニ依リマシテ種々相違モゴザイマセウガ、是ハ故意ニ致シマスレバ立派ナ犯罪ニナルノデゴザイマス、是ハ刑法上ノ責任ヲ生ジマスルシ、又其際ニ之ヲ取扱ヒマシタ官吏ニ過失ガゴザイマスレバ、其過失ニ基キマシテ職責上ノ調査ハ監督官廳ニ於テ致スノハ勿論ノコトデアリマス

○鈴木總兵衛君 續イテ伺ヒマスガ、此唯今政府委員ノ答辯ニ依リマス、登記所官吏ト云フモノハ左ノ例ニ倣フ書類ヲ申請シテ來レバ、書類ニ依リテ登記スルト云フ趣意デゴザイマスガ、第十五條ノ「登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條ニ掲ゲタル事項ノ外云々」トアリマシテ、此例ヲ準用スルト、先ヅ現在土地又ハ家屋ニハ或ハ市役所或ハ村役場ト云フヤウナトコロノ、證明書ト云フモノヲ添ヘルト云フ規定モアリマス、此山林ニモヤハリサウ云フ證明書ヲ取ルト云フ趣意ニナリマスガ、唯是ダケノ事柄デハ少シ不明瞭デアリマスカラ……

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) ソレハ彼ノ登記ノ申請書ニハ、不動産登記法第三十六條ニ掲ゲマシタ事柄ハ、總テ必要ト致スノデアリマスカラ、必要ノ證明書類ハ勿論添付シナケレバナラヌコトニナリマス

○濱田國松君 本件ニ付テノ大問題トナルベキモノハ、貴族院ニ於テモ議論ノアリマシタ、單純ニ植栽林ニ限ルカ或ハ天然林ヲモ包含セシムルカ、是ガ本案ノ骨子デアラウト思ヒマス、所デ政府委員ノ説明ニ依リマス、此法律ノ制定ヲ必要トスルモノハ植栽林ニ於テ最モ必要ヲ感ズルノデアル、天然林ニ於テハ其必要ヲ感ズルコトガ稍薄イ、斯ウ云フ御説明デアリマシタガ、是ハ餘程大問題デアラウ、ソレダケハチヨット不明デアリマスガ、事實上天然林ノ所有者或ハ天然林ノ轉得者ガ立木ノ保護ヲ希望スルコトガ、植栽林ニ比シテ薄イト云フノハドウ云フ譯デスカ

○政府委員(上山滿之進君) 御答致シマス、先ヅ此第十五條ノ方カラ申上ゲタガ分ルダラウト思ヒマス、ドウシテモ此抵當ニ致シテソレヲ登記スルト云フコトニナリマス、其登記簿ニ書イテアルモノト實地トハ合テ居ルト云フコトガ明カナケレバ、到底登記スルコトハ出來マセヌ、ソレヲ明カニ致シマスノニハ、第一樹ノ種類ガ杉デアル檜デアル、又類量ガ何尺ノ或ハ何本、樹ノ年齡ガ五十年デアルトカ三十年デアルトカ云フコトガ、ハッキリ致シマセヌト登記簿ニ書イテアルモノト實地トハ合フカ合ハヌカ分ラヌ、結局抵當權ノ目的物ガ明カナイト云フコトニナリマス、登記簿ニ參リマセヌ、ソコデ一條ガ政府ノ原案ガ斯ノ如ク文字ノ上デハ廣クナッテ居リマシテモ、之ヲ實地ニ適用スルニ當リテハ、十五條ノ唯今申シタ實際ノ狀況ヲ書面ノ上デ明瞭ニ載セルコトガ出來ルモノデナケレバイケマセヌカラ、從ッテ此雜木林又ハ針闊混雜林ガ一番此天然林ニ多イモノデゴザイマスカラ、斯ウ云フモノハ事實ニ於テ到底此法律ノ保護ノ下ニ立ツコトハ出來マセヌ、

雜木林ハナカク、年齡モ違ヒマスシ、樹ノ種類モ柏ガアッテ見タリ栗ガアッテ見タリ、種々雜多ノモノガ混生シテ居リマス、之ヲ一々調べテ其材積マテ書クト云フコトハ到底出來マセヌシ、ソレ故ニ第十五條ノ適用ハ斯ノ如キ林ニハ到底調ガ附キマセヌカラ、此一條ノ範圍ガ廣クナッテ居リマシテモ、事實ニ於テサウ云フモノニハ抵當權ヲ設定スルコトハ出來マセヌ、唯實際出來ルデアラウト思ヒマスノハ、人工植栽外デ所謂目的物ノ知レルダラウト思ヒマスノハ、先ヅ松山位ノモノデアレバ、御承知ノ通り先ヅ原則トシテハ人工植栽ハ致マセヌノデ、先程モ申上ゲマシタ通りニスツカリ母樹ヲ殘シテ、之ヲ天然下種ト申シテ松山ハ天然下種ニ依ッテ造林ガ一般ニ行ハル、方法デアリマス、此松山ニハ適用ガ事實ニ於テ出來ルデアラウト云フ積リテ原案ヲ拵ヘマシタ、所ガ此松山ニ付テ別ニ方々ノ狀況モ一通リハ取調ベマシタケレドモ、今日直グニ松山ニ適用シナケレバナラヌト云フ急ニ迫ッテ居ナイ、是ハ單純ニ狀況ノ方カラ推斷ヲ致シ、事實ノコトヲ申上ゲタノデゴザイマス、所ガ一方ノ人植栽ノ方デゴザイマスルト、現ニ奈良縣ナドハ大變ニ必要ヲ認メテ居リマスルシ、其他デモ近頃造林ト云フ思想ガ發達シマシテ、モウ十年十五年二十年ニナッテ居ルモノモ澤山ゴザイマス、五十六年位ノハ澤山デゴザイマス、是ナドハ早速ニ急ラ感ジテ居リ、又此法律ヲ適用スルニ最モ都合ノ好イモノデアリマス

○濱田國松君 政府委員ノ御答ニ依ルト此第十五條ハ手續ガ困難デカラ含マセヌト云フノデスカ、ソレガドウモ私ニハ分リ兼ねルノデスカ、十五條ハ登記ノ手續法デアラカラ困難デアリマセウケレドモ、登記ノ手續ガ困難デアラカラト云ッテ法律ノ内容ニ包含セシメテ保護ヲスルコトガ出來ヌト云フコトハ、少シク本末ヲ顛倒ニナッタ立法ノ精神デアアルマイカト思ヒマス、現ニ數量、樹種ガ天然林ハ調ベ難イト云フコトデゴザイマスルガ、一概ニサウ云フモノデハナカラウト思ヒマス、ソレハ一定ノ年限ニ人エヲ以テ造林ヲシタモノト同様ニ調査スルコトハ出來マシマイガ、例ヘバ農商務省若クハ其他御料局ナドデ、天然林ノ拂下ヲナサル時ニモ能ク樹齡、樹種、數量ナドヲ御調ベニナッテ居ルト見エテ、官報ノ上ニ詳シク御公告ニナッテ居リマス、既ニサウ云フ御調査ガ出來テ居ル例ガアルノデアルノニ、先刻來天然林ノ取調ガ出來ヌト云フコトハ少シク私ノ頭ニ分リ兼ねマスカラ、ソレモ都合ニ依ッテ伺ヒタイ、ソレカラモウ一ツ御尋シタイノハ、政府委員ハ度々抵當權抵當權ト云フコトヲ仰シヤルガ、是ハ立木ノ抵當法デアハナクシテ立木ノ保護法デスカ、立木ノ所有權ノ確保ト云フコトヲ主トシテ居ル、其立木ノ所有權ノ確保ト云フコトハ、植栽林ノ所有者モ天然林ノ所有者モ齊シクソレヲ感ジテ居ルコトダラウト思ヒマス、然ルニ植栽林ニ限ッテ此法律ノ制定ヲ感ズルト云フコトハ其御趣意ガ分ラヌ、現ニ政府委員ハ奈良縣奈良縣ト仰シヤルガ、此法ハマア一般ニ適用セラル、デアリマセウガ、私ノ知ッテ居ルトコロデハ、事實ニ於テ隨分山林中デ天然林デ賣買ガ盛行ハレテ居ル所ガゴザイマス、必シモ植栽林デナクシテ天然林デ盛ニ賣買ガ行ハレテ居マスガ、ソレガ此法律ニ依ッテ保護ヲ受ケルコトガ出來ヌト云フコトニナルトスルト、ソレハ甚ダ立法ノ精神ニ反スルモノデハナイカト思ヒマスルガ故ニ、ソコヲモウ一應伺ヒマス

○政府委員(上山滿之進君) 先程カラ私ノ説明ハ事實ノ方カラ申シタノデアリマス、デ理窟ノ方カラ申シマス、ソレハ皆悉ク保護セラレナイモノハナイノデアリマスケレドモ、事實ノ方カラ申シマス天然林ノ如キモノヲ抵當ニ入レヤウトスルノニハ、大變ノ手數ヲ

致サナケレバナラス、デサウ云フ大變ノ手數ヲスル程ナラバ、何モ斯ウ云フ法ヲ設ケテマデモ抵當ニ入レル必要ハナイ、假令一條ガ廣クナッテ居リマシテモ、登記ノ手續トシテハ十五條ノ二項ガ必要アリマス、其二項ノコトヲ備ヘヤウトスルニハ事實ニ於テ非常ノ手數ヲ要シマスノデ、サウ云フ方ノコトヲ申上ゲタノデゴザイマス、デ此十五條ハ唯登記ノ手續アルカラ、其手續ノ根本ノ方針ニ於テハ天然林ニモ及ボスノガ當然デハナイカト云フ御話デ、是ハ誠ニ御尤モノ御話デゴザイマスガ、是モ事實ノ方カラ申シマシタノデ、登記ノ方ノ手續キカラ申シマス、ドウシテモ十五條ノ二項ニ依ッテシナケレバナリマセヌ、ソレヲ根柢ニシテ天然林ニモ及ボスガ當然アルガ、天然林ノ大部ニハ實際調査ガ出來ナイト云フコトヲ申シタノデアリマス、ソレカラ尙政府ガ山ヲ賣ル時ニ大變委シイ調ベヲシテ居ルカラ、從ッテ民間デモ出來ヌコトハアルマイト斯ウ云フ御尋デゴザイマシタ、是モ一應御尤モデアリマス、併シ政府デアレバ調ベマスルニハ大變手數ヲ掛ケマシテ一本々々ニ調ベマス、ツマリソレハ國有デアルモノヲ手離スノデアルカラ一本々々ニ調ベ、非常ノ手數ヲスルノデアリマスガ、民有林デアレバ手離スノ手數ヲシテマデモ抵當權ヲ有セナケレバナラス必要ハ無カラウト思ヒマス、尙政府ノ調ベハ出來テ居ルガ、アレバ手數ヲ掛ケテ委シク調査シマシテモナカクアレバ確カト云フコトニハ參リマセヌ、サウ云フモノヲ抵當權トシテ登記ヲスルト云フコトハ、後日ノ紛擾ノ素ヲ作ルコトニナリマス、ソレ故サウ云フコトハ避ケタ方ガ宜イ、サウ云フ譯デアリマスカラ範圍ガ狹イヤウデアルカラ、天然林ノ大部分ハ此法律ノ支配ノ下ニ立ツコトハ事實上出來ヌガ、ソレハ今日ノ所植栽林ガ急ヲ感ズル程天然林ハ急ヲ感ズニイト思ヒマスカラ、此際ハ人工植栽林ニ止メテ、是非此法案ヲ成立サセテ戴キタイト斯ウ云フ希望デゴザイマス、此邊御承知ヲ願ヒマス

○町田日龍君 先刻來ノ説明デ略々分リマシタガ、ヤハリ此第一條ニ付テデスガ、サウ致シマスルト此松林新炭山ノ如キモノハ、ヤハリ次年ノ伐採ヲ待ツマデノ結果デアルカラシテ、登記ガ出來ナイ事柄デアルト云フコトモ分リマシタガ、之ニ付テ私ノ甚ダ遺憾ニ思フノハ、事實ニ於テ杉、檜或ハ梅ソレニ幾分ノ雜木ガ交ッテ森林ヲナシテ居ルモノガアル、ソレハ此第十五條ニ依リマス到底此抵當權ヲ設定スルコトガ出來ヌコトニナルデアラウト思ヒマスガ、ソレガ同ジ土地ニ生ヘテ居リマスモノデモ、其樹種ガ或ハ二種ニ限ッテ居ルトカ、松、檜、杉トカ云フヤウナ調ノ出來ルモノハ、ヤハリ此法律ニ依ッテ登記ノ出來ルモノデアリマスガ、又ハ種類ガ一二限ラネバ出來ナイノデアリマスガ、サウシテ數種混同シテ其中ノ杉ナリ梅ナリ檜ナリ、一種ヲ登記スルト云フコトナラソレハ出來ルノデアルカラ、ソレバ何ッテ置キタイ

○政府委員(上山滿之進君) 種々ノモノガ雜生シテ居リマシテモ、一條ノ人工植栽ニ依ッテ林デゴザイマス、樹種、數量、樹齡ニ付テ取調ヲ致シマシテ、登記ヲ申請スレバ出來マス、其中ノ一種ノ樹木ヲ撰シテ登記スルト云フコトモ出來ルト思ヒマス

○町田日龍君 實際ニ於テ人工栽培シタモノカ自然生デアルカト云フコトガ分ライデ、價值ノアルモノガ澤山アルト思ヒマスガ、今ノ御説明デアリマス其調ガ出來レバ登記ガ出來ルデアラウト云フ御考デスカ、是ハ餘程遺憾ニ感ズルトコロデアリマスガ、何トカ方法ハアリマセヌカ

○政府委員(上山滿之進君) 今ノ樹種、數量、樹齡ノ調ガ出來マセバ仕方ガアリ

マセヌ、ソレガ出來レバ無論登記ガ出來マス、尙此際附加ヘテ申上ゲテ置キタイコトハ、天然林ト人植林トノ區別ガ極ク古イモノデハ分ラヌト云フ點ニ於テ御疑ガアルヤウデアリマス、是ハ正直分リマセヌ、林學者ヲ伴レテ來テ鑑定サセテモ、鑑定ノ結果右トカ左トカ申シマスケレドモ、實際ヘ行キマス御承知ノ秋田ノ長木澤ノ官林、アレハ學者ノ説ハ天然林ト云フコトニナッテ居リマスケレドモ、外ノ學者ノ説ヲ聽キマス必ズシモサウハ言ヘナイ、人工植栽シタモノカモ知レヌト云フ形迹ガアル、ア、云フモノニナリマス天然林カ人工植林カト云フコトハ困難ナ問題ニナリマスケレドモ、此法律ノ立場カラ申シマスルト、斯ノ如ク困難ナモノハ之ヲ人植林トシテ登記シテ、後ニ問題ニナッテ場合ニ、ソレガ天然林ニナルト云フコトハ無イダラウト想像シマス、既ニ本体ニ於テ的確ナル意見ノ定マラナイ性質ノモノデアリマスカラ、從ッテ人工植林トシテ登記シタルモノガ後ニ天然林デアルト云フ解決ニナルコトハナイモノダラウト想像シマス、全体民林ニハ何時出來タモノカ分ラヌト云フヤウナ大森林ハナイデス、極ク或部分デ或人ガ祖先以來幾何歩カノ山ヲ有ッテ居ルト云フコトハアリマセウガ、今日ノ木材ノ狀況カラ申シマス、先ヅ民林デハ大キナ木ハ伐盡シタヤウナ次第デアリマスカラ、或民林ガ是ハ人造林デアルカ天然林デアルカ區別ノ出來ナイ、而モ此法律ニ依テ所有權登記ノ手續ヲシタイト云フモノハ、事實ニ於テ稀有ノコト、思ヒマス、實際ノ狀況カラ見テモ其邊ノ心配ハ要ラナイカト思ヒマス

○阿部政太郎君 私ノ聞クトコロニ依ルト吉野邊ノ植林ハ多クハ土地所有者者ト栽培者ト、人ガ變ッテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス、是ハ決シテ近ク起ッテ現象デハナクシテ、餘程古カラ其様ナ現象ニナッテ居ルト聞イテ居リマス、爲ニ長イ間ノ習慣トシテ土地ヲ借りテ植林ヲスルモノモ、安全ニ植林スルコトガ出來ルヤウナ習慣ガ成立ッテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、政府ニ於テ今マデノ吉野ニ係ルサウ云フ習慣ヲ御調ニナッダコトガアルナラバ、一應御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

○政府委員(上山滿之進君) 唯今ノ御尋デアリマスガ、是ハ御承知ノ通り吉野ノ造林事業ハ數百年前カラ行ハレテ居リマス、以前ハ慣習法ノ保護ヲ受ケテ、立木ハ土地ト離レテ別ニ不動產ヲ爲シテ居ル形デアリマス、從ッテ立木ダケガ賣買、讓與、交換、抵當ノ目的トナッテ居リマシタ、維新以後ニナリマシテモ村役場ノ奥書ヲ取ッテ抵當トスルコトガ出來テ居リマシタ、所ガ新民法施行以後土地ノ定着物ハ土地ニ從フ、即チ主物從物ノ關係ガ明ニ民法ニ定メラレマシタ結果トシテ、立木ハ土地ノ一部デアル、土地ノ定着物デアルカラ土地ト云フ不動產ノ一部デアルト云フコトニナリマシタ爲ニ、今日ノ現狀ヲ申シマス止ムヲ得ズ立木ヲ仕立テル年限間、其土地ニ地上權ヲ設定シ、ソレニ依テ立木ヲ仕立テ、居リマス、所ガ地上權ノ効力ト云フモノハ直チニ立木ニ及バカドウカト云フコトハ、今日法律上ノ疑問デアル、言葉ヲ換ヘテ申シマスル地上權ヲ設定シテ自分デ伐ッテ賣リマシテモ、其地上權ノ効果トシテ、其木ハ其地上權ニク付イテ往クカドウカ、地上權ヲ抵當ニシタ場合ニ於テ、其立木ハ所有者ガ木ヲ勝手ニ伐ッテ事ガ出來ルカドウカ、勝手ニ伐ッテ事ガ出來ルト云フコトニ寧ロ議論ガ傾イテ居ルヤウニ承ッテ居ル、若シ上ノ木ヲ——立木ヲ所有者ガ勝手ニ持ッテ往クコトガ出來レバ、地上權ヲ抵當ニシテモ殆ド無益ニナル、ソレバドウシテモ斯ウ云フ法律ガ出來マシテ、立木ダケ別箇ノ不動產トナッテ十分法律行爲ノ目的物トナラヌト、到底完全ニ林業ノ發達ヲ期

スルコトが出来ヌ、斯ウ云フ状態ニナッテ居マス

○濱田國松君 簡單ニモウツ伺ヒマス、此貴族院デ政府ノ原案ハ造林ノ目的トナッテ居タデスガ、之ヲ貴族院ガ植栽ノ目的ト云フコトニ變ヘテ趣意ハ、造林ト云ヘバ天然林ニ手ヲ入レタモノヨリ稍、廣キ意味ニナルカラ、根本的人造林ト云フ植栽ノ目的ト修正ニナッタヤウニ心得マスガ、サウデアリマスカ

○政府委員(上山滿之進君) 其通りデス、人工植栽ニ限ルノデス

○濱田國松君 天然林ニ手ヲ入レテ稍、整フテ居ルモノハ這入ラヌト云フノデスカ

○政府委員(上山滿之進君) 左様

○阿部政太郎君 唯今土地ヲ借用シテ植林スル現状ヲ御説明デゴザイマシタガ、兎ニ角ニ現在ノ法律ニ於テ保護ヲ受ケル限り、地上權ノ設定ナリ何ナリデヤッテ居マス、ソレガタメニ植林者ニ著シキ損害若クハ其植林ノ發達ヲ妨ケルト云フヤウナ、著シキ事實ガ現ニ見エテ居ルノデアリマセウカ、若シアリトスレバ如何ヤウナ事柄デアルカ、一應御説明ヲ請ヒマス

○政府委員(上山滿之進君) 現在大變ニ困ッテ居マス、立木ガ別ニ不動産トナッテ法律行為ノ目的物ニナリマセヌタメニ餘程困ッテ居マスカラ、數年來ドウカ之ヲ別ノ不動産ニシテ貫ヒタイト云フコトヲ、當業者カラ熱心ニ希望シテ居マス、ドウ云フ風ニ困ルカト申シマス、先程モチヨット申上ケマシタガ、現在ノ抵當ノ下デゴザイマスト、抵當トシテ其地上權ヲ入レマシテ皆地上權ヲ止ムヲ得ズシテ地上權ヲ設定シテ、其地上權ヲ抵當ニシテモ抵當權者ニテハ上ノ立木ヲモ抵當ノ目的物ニナッテ居ルモノト思フテ居ル、抵當權設定ノタメニ無論上ノ立木モ目的トシテ居リマスケレドモ、併シ法律ノ解釋上地上權ト云フコトノ一定ノ意義カラシテ、上ノ立木モ抵當權ニ入レテ居ラヌ、立木ハ何日デモ伐ッテ持ッテ往カレ、持ッテ往ッテモ苦情モ言ヘナイ、斯ウ云フ譯ニナッテ居ルカラ折角抵當ニシヤウト思フテモ、アヤフヤノモノダト思フヤウニ抵當デ金ヲ貸シテ呉レヌ、從ッテ立木ヲ有テル人間ハドウモ思フヤウニ金ヲ借ルコトが出来ナイ、向フモ安心シテ貸シマセヌ、コッチハ借リラヌカラ從ッテドウシテモ造林ガ思フヤウニ往カヌ、是ガ一番著シキ狀態、ソレハ法律ヲ救済シテ一日モ早ク此法律ヲ成立タシ之ヲ保護シテ、造林ノ事業ヲ益々發達サセタイ、斯ウ云フ趣意デアリマス

○阿部政太郎君 分リマシタ、尙更ニ御聽クシテ置キタイコトハ、此ノ本法ノ立木ト稱シマスノハ即チ造林カ或ハ果樹林樹蜜柑ト云フヤウナモノモ這入ッテ居マスカ

○政府委員(上山滿之進君) 是ハ貴族院ノ本會議デモチヨット唯今ノ御尋ニ類シタ質問が出来シタガ、此案ノ目的ハ山林ニアルノデゴザイマス、園藝ノ如キモノハ這入ッテ居ラヌ、山ノ山林ヲ仕立、仕立テタ山林ヲ有アルニ付テハ、十分ノ保護ヲ與ヘルト云フ趣意デゴザイマス、山林ガケテ園藝ノ方ハ這入リマセヌ

○阿部政太郎君 今日ノ造林保護ノ上若クハ獎勵ノ上カラ言ヒマシテモ、單純ニ材木栽培ト云フヨリハ、所ニ依テハ果樹ノ方ノ植林ガ利益ノ上ニ於テ著シイ差ガアル、從ッテ今日デハ他人ノ土地ヲ借テ植林ト云フモノガ年々殖ヘテ來テ居ル、此等ノ如キハ無論今マデ政府委員ノ説明ニナッタヤウナ不便ヲ感シテ居ルノミナラズ、寧ロ此必要ガアル、新ニ出來タコロノ果樹林ノ如キ一層ノ必要ガアルデハナイカト思フ、杉ヤ檜其他ノ植

林ニ付テハ、是ハ長イ間成立ッテ居ルカライロ、習慣上ドウニカ融通其他ニ於テモ出來テ居ルケレドモ、今新シクヤッテ往クモノ、如キハ習慣ト云フモノガ少シモナイノデアルカラ、最モ其必要ガ迫ッテ居ルコトハ事實デゴザイマス、現ニ青森縣ノ如キハ近年林樹林ノ栽培ト云フモノガ實ニ甚シク迅速ノ進歩が見エテ居リマス、今日マデハ畑ヤ田ヤ云フヤウナモノニ栽培シテ來テ居リマスケレドモ、今日デハ其様ナ餘地ガ無クナッテ來テ、山ノ方ニ果樹林ヲ開クコトニナッテ居ル、故ニ其土地ノ所有者ト殖林スル其モノトハ先ヅ大概ネ人間ガ使ッテ居ルヤウナ譯ニナッテ居ル、サウ云フ必要ガ迫ッテ居ルモノヲバ、ウッチヤラカシテ置イテ、ドウニカ習慣デアッテモ幾分ノ救済ノ方法ガ立テ居ルモノニ付テノミ本法ノ御蔭ヲ蒙ルト云フコトハ如何ナモノデゴザイマセウカ、單ニ造林ト云フ以上ハ、兎ニ角總テノ果樹ニ拘ラズ單純材木ニ拘ラズ、一ノモノト解釋シテ往ッテ何ノ不都合ガナイト思ヒマスガ、政府ノ御考ハ如何デアリマス

○政府委員(上山滿之進君) 果樹園ヲ一ノ不動産トスルガ宜イカドウカト云フコトハ研究ヲ致シテ居リマセヌ、成程近來果樹ノ栽培ト云フコトハ餘程各地方デ發達致シマシタ、餘程是ハ大ニ保護獎勵ヲシナケレバナラヌ事柄デアリマス、保護獎勵ノ方ハヤッテ居リマスガ、之ヲ別ノ不動産トスルガ宜イカドウカト云フコトハ研究シテ居リマセヌ、併シ別ノ不動産トスルガ宜イカドウカト云フコトハ、此法律ノ中ハ一緒ニ入レルト云フコト先程モ申シマシタ通り地上ノ立木ハ所有權ニ從フコトガ、今日ノ法規ニ於テモ定マッテ居リマスガ、又實際ノ上カラモ概括シテ見レバソレガ正シイト思ヒマス、併シ山トナリマスト山ガ大事デハナクテ上ノ木ガ大事デアル、木ガ大事デアルカラ木ヲ動産ニシナケレバ實際ニ適合シナイト云フコト此法律が出来タノデアリマス、サデ果樹ニ適用シテ見マスト、果樹ト云フ木ガ貴クナル物が貴イ、丁度果樹ニシマスト果樹ノ實ガ此法律ニ書イテアル立木ニ當ルト思ヒマス、木ヲ保護シテ見タコロデ果樹トナルト又大分一段線ガ遠クナッテ來マス、擬テ其果樹ヲドウシテ保護スルカト云フコトハ此法律デハヤリ切レマセヌ、一段階段ガ違ッテ居リマスカラ、其點ニ於テモ此法律ニ入レテ果樹ヲ保護スルコト云フコトハ一箇ノ不動産ト見ルコトハムヅカシカラウ、ソレカラモウ一ツハ此普通ノ山林デゴザイマスト四五年モ經テマスト自然大體ニ任シテ間拔ラスルトカ拔打ラスルト云フコトハ致シマスガ、大體ハ自然ニ任シテ居ル、果樹ニナルト年々餘程ノ手數モ加ヘテ肥料モ毎年ヤラナケレバナラズ、虫モ取テヤラナケレバナラヌ、サウ云フ手數ヲ加ヘルト加ヘヌト云フコトニ依ッテ果樹園ノ價格ハ違ッテ參リマスカラ、之ヲ別ノ不動産トシテ例ヘバ抵當ノ目的ニシヤウト云フコトニシテモ抵當權設定者ガ十分ニ注意ヲ拂フト拂ハザルトニ依テ餘程ノ危險ヲ感シマスカラ、ナカ、ノ抵當權ニスルト云フコトモムヅカシイコトデアラウト思ヒマス、此點ニ付テ深ク研究ハシテ居リマセヌガ、少クモ其二點ニ於テ別ニ其制度が出来ルノガ別物ト致シマシテ此法律ノ中ニ一緒ニ果樹園ヲ入レテ支配スルト云フコトハ事實行レナイ、斯ウ云フヤウナ考ヘテ居リマス

○濱田國松君 我國ノ民有山林デアッテ植林天然林トノ百分ノ比例ハドウナッテ居リマス

○政府委員(上山滿之進君) ソレハ調べテアリマセヌ、凡ソノコロモ杜撰ナ話デアリマスカラ申上兼マス、植林ハ年々殖エテ居リマス、何カ事ガアレバ植林ヲ起シテ居リマス

○阿部政太郎君 私ノ唯今果樹林ニ付テ質問シタノハ、言ヒ方ガ粗漏デアッタガタメ政府委員ノ御答モ私ノ満足スル御答ヲ得ナイノデアッタカモ知レヌガ、私ハ斯ウ思フノデアリマス、單ニ造林ト云フ以上ハ例ヘバ杉デアッタコロガ檜デアッタコロガ、若ハ蜜柑デアッタコロガ桃デアッタコロガ、林檎デアッタコロガ、苟モ木トシテ林ニ造ルト云フ以上ハ兎ニ角此造林ト云フ中ニ加ヘルノデアアル、別ニ果樹トシテ其實ヲ特別ニ保護スルノ方ニモ此方法ヲ以テ維持シテ往クト云フヤウナ譯デアナイノデ、單純ニ此果樹デアッタコロガ、其樹ニ付テノ林デアレバ無論此一箇ノ不動產ト見做スト云フコトダケハ、此法ガ出來ル以上ハ當然此法ノ御蔭ヲ蒙ル、斯ウ私ハ解釋スルデスカ、ソレデ差支ナイデアラウト思ヒマスガ

○政府委員(上山滿之進君) 私ノ言葉ノ足りマセヌデシタカ知リマセヌガ、モウ一言簡單ニ申上ゲマス、此法案ノ主要トスル目的ハ立木デアアル、木ヲ保護シタ、果樹園ノ場合ニ此意味ヲ適用致シマスト云フノデナクシテ、果物デナケレバナラヌト云フ筋ヲ申シマシタ、果樹園ダト木ガ貴イノデナクシテ果物が貴イ、此法案ハ求メルトコロハ山林デアルト山ガ貴イノデナクシテ立木ガ貴イノデアアル、此法案ハ立木ヲ主トスルノデ、果樹園ハ木ガ貴イノデナクシテ果物が貴イ、果物ヲ保護スルコトニナルト此案ノ意味トハ違フト云フコトヲ申シマシタ、果樹園ニナリマス木ガ立テ居ルカラト云フノデ、特別ニソレニ不動產ト云フ資格ヲ木ニ與ヘテ、ソレヲ抵當權ナリ何ナリニサスト云フコトハ如何ナモノデアラウカ、最モ貴イ點ガ樹デナクシテ果物ニアル、此方ノ貴イ點ハ果物デナクシテ樹ニアル、少シ趣意ガ違フヤウニ考ヘマス、其事ヲ先刻申上ゲタノデス

○委員長(鵜澤總明君) 最早質問ハ終了ト認メマスカラ、是ヨリ討論ニ移リマス

○鈴木總兵衛君 私ハ全體此事柄ニ付テハ、最初政府ニ於テ意見ノアリシ如ク、天然林マデモ包容スルコトニシタイト云フ希望デアリマス、併ナガラ今日斯ル會期切迫ノ場合ニ、貴族院デ修正ニナッタモノヲコナラデ又修正スルコトニナリマス、遂ニハ其往復ノ間ニ時日ガ經過シテ、折角是マデニナッタ案ヲ潰シテシマフト云フコトハ如何ニモ残念デアリマスカラ、他日政府ハ是ニ付テ能ク御調査アデ、天然林ニモ是ガ行ハレル如クニ御提案アリタイ、斯ウ云フ希望ヲ附シテ本案ニ賛成致シマス

○濱田國松君 私ハ第一條ノ貴族院デ修正サレマシタ「植栽ノ目的ヲ以テ」云フノヲ、ヤハリ政府ノ原案通り「造林ノ目的」ト云フコトニ復活シテ通過サセタイ、其理由ハ委ハシク申上ゲマセヌデモ質問ノ中ニ自ラ御了解ナサルデアラウト考ヘマス、是ハ立木ノ抵當權バカリデナクシテ年來民間ノ希望ヲ採用サレテ立木全體ニ付テノ保護法案ヲ提出サレタノデアリマスカラ、多少登記手續上ノ困難ガアルトシテモ、大體ノ目的ヲ達スルタメニ私ハ絶對ニ植栽林ノミナラズ天然林ニ人エヲ加ヘテ、實質ニ於テハ植栽林ト異ラヌモノヲモ包含シテ保護スルコト云フ目的ヲ達スルタメニ、ヤハリ原案通り造林ノ目的ト云フコトニシタ方が宜カラウト思フ、天然林ニ相當ノ人エヲ加ヘテ、實質ガ植栽林ト異ラヌモノヲ保護シナイト云フコトハ、立法ノ上ニ於テ謂レナイコトデアアル、又第十五條ノ登記ノ條件ヲ充スニ付テモ、天然林ニ手ヲ入レタモノハ植栽林ト同様ニナルノデアリマスカラ、言葉ノ上カラ言ッテモ天然林ニ手ヲ入レタモノハ——十五條ノ登記條件ヲ充シ得ル程度ノモノハ、即チ此所謂天然林ニ手ヲ入レタモノデアラウト思フ、サウスルト十

五條ニ之ヲ入レルト、煩雜ナ手續ヲ要スルト云フガ手續ノタメニ立法ノ精神ヲ没却シテシマフコトニナッテ、吾々ガ多年立木ノ保護ヲ渴望シテ居ッタコロノ趣意ニ適ハナイ、又今此處ニ於テ統計ノ數ハ明ニ申スコトハ出來マセヌガ、百分ノ八十ヤ九十ハ天然林ノ方ガ多カラウト思ヒマス、植栽林ハ一部分ニ過ギヌノデアラウト考ヘマスカラ、絶對的ニ天然林マデヲ入レタイト云フコトハ希望デアリマスガ、是ハ政府委員ノ御説明モ一理アルコトデアリマスカラ、私ハ其中間ノ趣意ニ基イテ造林ノ目的ト云フコトニ、政府原案ノ通り復活シタイト云フ意見デアリマス

○森正君 私ハ鈴木總兵衛君ノ御説ニ全然同意致シマス

○町田日龍君 私ハ第一條ニ付キマシテハ天然林ヲ除キマシタノハ、甚ダ遺憾ニ存シマスケレドモ、會期モ切迫致シマシタ今日ニ於テ、此貴族院ノ修正ニ同意セヌシテ彼是申シテ居リマシテハ、此法案ノ成立ヲ見ザルコトニナラウト思ヒマスルシ、且是アモ吾々ノ希望ハ半バ達シテ居ルト思ヒマスカラ、鈴木君ノ御意見ニ賛成致シマス

○井上傳作朗君 私ニ於キマシテハ造林ト云フコトガ原案デアリマシテ、多ク希望スルトコロデハゴザイマスケレドモ、最早會期モ盡キル今日ニ至ッテ居リマスルシ、尙又二十二議會ニモ右ノ通り貴族院ニ於テ會期ガ盡キテ其儘ニナッタト云フコトモアリマスカラ、私モ鈴木君ノ御意見ト同一デゴザイマス

○委員長(鵜澤總明君) 最早討論ハ盡キタト認メマスカラ採決致シマス、濱田君ノ御説ニハ賛成ガアリマセヌ、鈴木君ノ御説ノ方カラ決ヲ採リマスガ、貴族院ノ修正通り可決スルト云フ鈴木君ノ御説ニ御賛成ノ御方ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○委員長(鵜澤總明君) 多數ト認メマス、ソレデハ委員會ハ貴族院ノ修正通り可決致シマシタ、閉會シマス

午後零時九分散會

明治四十二年三月二十三日印刷

明治四十二年三月二十四日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局